

令和4年度 第1回社会教育委員会議事録

【日時】 令和4年（2022年）6月28日（火）14：30～16：30

【場所】 生涯学習センター5階 第一学習室

【出席委員】

副議長	櫻井 聡	委員	臼井 護
委員	浦野 千鶴	委員	加藤 春樹
委員	小林 純子	委員	塩野谷純香
委員	八矢 信宏	委員	濱田 恵里
委員	林 但	委員	松本 敬之介
委員	山岸 雅人	委員	渡辺 孝夫

【欠席委員】

議長	長 梨本 加菜	委員	志村 直愛
議長	長 蛭田 道春		

【事務局出席者】

教育総務部長	古谷 久乃	生涯学習課長	柿原 美奈
同課係長	島内 さおり	同課主任	遠藤 雅弘
同課アシスタント	杉山 一美	中央図書館長	山口 正樹
博物館運営課長	柳井 栄美	美術館運営課長	岡本 剛彦
地域コミュニティ支援課長		同課総務係長	野村 一広
	渡邊 久美子		

1. 開会

定刻通りに会議を開始した。委員改選後初めての会議のため、議長が互選されるまで、生涯学習課島内係長が司会を務める旨を告げた。

会議の傍聴について

事務局から、傍聴要領及び議事録の取り扱い、情報の開示について説明した。
傍聴希望者0名。

2. 辞令交付

古谷教育総務部長が、出席委員に社会教育委員の委嘱の辞令交付を行った。

各委員から、自己紹介を行った。

3. 部長挨拶

古谷教育総務部長から、挨拶を行った。

4. 事務局職員紹介

事務局である教育総務部生涯学習課職員及び報告のために出席している社会教育施設の教育総務部中央図書館職員、同博物館運営課職員、文化スポーツ観光部美術館運営課職員、及び民生局地域支援部地域コミュニティ支援課職員の紹介を行った。

5. 資料確認

事前配布資料と当日配布資料の確認を行った。

6. 定足数について

出席委員は 12 名で、社会教育委員会議規則第 4 条第 1 項に基づき、会議が成立していることを報告した。

7. 報告

(1) 美術館の令和 3 年度事業概要及び令和 4 年度事業概要（予定）について

美術館運営課岡本課長が概要説明を行った。

<質疑応答>

島内係長 ただいまの説明について、何か質問等があるか。

(質疑なし)

(2) 図書館の令和 3 年度事業概要及び令和 4 年度事業概要（予定）について

中央図書館山口館長が概要説明を行った。

<質疑応答>

島内係長 ただいまの説明について、何か質問等があるか。

委員 先日、講演会を聞いたら、図書館の運営を TSUTAYA に任せて活力を得ているという話を聞いた。横須賀市も美術館にはレストランがあって、それなりの効果があると思うが、図書館に

についてはそのような計画は横須賀ではないということによいか。

山口館長 今、図書館はさまざまな形態があり、従来の本を借りる読むだけの場所だけではなく、いろいろな機能が求められている。街の中核、賑やかし、生涯学習の拠点としての立ち位置も考えていかなければならない。これからの図書館に求められるものは、色々な角度から求められているものだと思う。10年位前にTSUTAYAが中心となって新しい図書館の展開があった。コーヒーショップと一緒にあったり、くつろぎの空間づくりのために形作った図書館などは、今の一つの流行りであると思う。横須賀は今、検討をしている真っ最中である。現在これが正解というものは出ていない。横須賀には横須賀にあったもの、追浜には追浜にあったもの、街の特性を生かした、駅前という利点を生かした、利用者のサービスも向上して、街にもぎわうような内容を考えている。

委員 自動貸出機返却機はサービス向上につながり、時間も節約になると思うが、省人化、スタッフの人数を減らすとか、そのようなこともセットになっているのか。

山口館長 DXの推進ということは業務が自動化されて、それに携わる人の量や業務量も減ってくるのは間違いない。それについては業務に相応しい体制でいきたいと思っている。

委員 貸出しのスタッフや司書の人的なソフトの面でのメリットもあると思うので、バランスも十分とっていただければと思う。

委員 資料14ページに職員の視察研修とあるが、例えば視察はどこへ行ったのか。

山口館長 中身はほとんど新しい図書館への視察である。主に追浜駅前図書館に関連したところと、自動貸出機をすでに導入している他都市の図書館の2種類が昨年度は多かった。今年度は情報収集のために新たな試みを行っている図書館へ行きたいと思っている。

(3) 博物館の令和3年度事業概要及び令和4年度事業概要（予定）について

博物館運営課柳井課長が、概要説明を行った。

<質疑応答>

島内係長 ただいまの説明について、何か質問等があるか。

委員 ポケット学芸員とは何か。

柳井課長 スマートフォンのアプリである。ダウンロードをしていただくとスマホで展示解説を見ることができるスマートフォンのアプリである。来館した方がポケット学芸員を手元に持ちながら展示を見ると、学芸員が説明をした解説が文章で載っているので、理解を深めていただけるのではないかと考えている。

委員 ポケット学芸員をお子さんもよく使うと思うので、キャリアの面から見ると、学芸員の仕事の説明も含めてあると、こんな仕事があるんだと知識がより深まるのではないかと考えた。

柳井課長 ぜひ、今のご意見を参考にさせていただきたいと思う。

(4) 生涯学習課の令和3年度事業概要及び令和4年度事業概要（予定）について

生涯学習課柿原課長が、概要説明を行った。

<質疑応答>

島内係長 ただいまの説明について、何か質問等があるか。

(質疑なし)

(5) 地域コミュニティ支援課の令和3年度事業概要及び令和4年度事業概要(予定)について

地域コミュニティ支援課渡邊課長が、概要説明を行った。

<質疑応答>

島内係長 ただいまの説明について、何か質問等があるか。

委員 オンライン講座への展開について、発信側は行政が準備をするので十分な準備ができていると思うが、受ける側はパソコンをはじめ機材の種類も全て違うなどあるため、準備段階からきめ細かい対応をぜひお願いしたい。

渡邊課長 参加していただく方も不得手な方がいらっしゃるのので講座を作り上げるときにも、応募していただいた方が、環境に慣れていないということを踏まえながら、そのような講習もしながら、オンラインをうまく活用できるよう、サポートをしていけるように努めていかなければと思います、課題だと受け止めている。今後、指導員たちとも共有しながら、こういった形のオンライン講座がいか検討をしていきたいと思う。

委員 10月以降、市外料金を導入するとのことだが、区別はどのようにするのか。例えば、厚木市は団体の構成員の過半数が厚木市民であれば、市内の団体と区別をしている。三浦市は1人でも三浦市民がいれば、市内の団体と認めている。統一的な見解が自治体によって違う。横須賀市はどのような視点で考えているのか。

渡邊課長 今の団体登録のルールでは、代表者は市内在住・在勤・在学、構成員は過半数の方が市内在住・在勤・在学としているため、厚木市に近い。

委員 構成員は過半数が市民であれば市内の団体、代表者の住所が一番の基準という考え方か。

渡邊課長 代表者が市内在住・在勤・在学であり、代表者が予約を行うが大前提である。市外はゲスト登録で1回だけの利用や、その都度その都度利用ができることが新しい試みである。市外の利用者は団体登録できないという点は今までと変わらない。今週の土曜日だけ使いたいという場合、空いていればゲスト登録という形で使っていただくことができるようになる。団体登録の定義が変わるといようなことではないとご理解いただければと思う。

委員 同じ団体がいくつか利用していたり、代表者がどう見ても違う場合や便宜上名前を貸していたりするところがあるのではないか。

渡邊課長 同じようなサークルがいくつか存在する。例えばひとつ大きなダンスサークルがあり、名前をABCなどと変えて登録をするという実態があるということだと思うが、明らかにこれはというところは指導させていただき、除籍の方向を考えている。あからさまにわからない限

りはなかなか指導ができないというのが実態である。ただ、目に見えておかしいという指摘をいただいた場合はその団体に適正な利用をしていただけるようお願いをするので、ご迷惑をおかけしていると思うが、ご理解いただきたい。市の関連団体や公益的などが優先予約をし、埋まってしまっているときもあると思うが、ご不明な点などがあれば、お調べするのでご連絡いただければありがたい。基本的には皆さんで気持ちよく使っていただくということを前提で運営をさせていただいているので、不具合あると思うが、ご理解いただければと思う。

(各施設の説明委員退出)

(6) 令和4年度神奈川県社会教育委員連絡協議会総会について

6月24日(金)開催。出席委員は臼井委員、松本委員、山岸委員。

8. 議事

(1) 議長・副議長選出

社会教育委員会議第2条第1項に基づき、議長、副議長を互選した。

協議において、渡辺委員から推薦が挙がり、出席委員の承認により、梨本委員が議長、櫻井委員が副議長を務めることが決定した。

(2) P T A協議会への補助金の支出について

島内係長から説明を行った。

副議長 P T A協議会の補助金についてご意見はあるか。

委員 補助金を使う内容や目的を説明してほしい。

島内係長 資料10に記載があるが、1番目の運営経費補助金については事務室の借り上げ料、臨時職員の賃金等の運営経費を補助している。2番目の事業経費補助金については家庭教育学級、研修等を開催したときの事業経費を補助している。最下段の神奈川県下市立高等学校 P T A連絡協議会補助金は研修会を実施する際の経費の一部を補助している。

委員 わかった。金額を査定するにあたって基準や尺度などはあるのか。

副議長 副議長だが、市 P T A協議会会長でもあるのでご説明する。P T A協議会は各市郡にある。横須賀市の場合、元々事務局は生涯学習課の中にあっただが、外に出し、委託して横須賀市 P T A協議会として独立させた。その際に、事務局が活動するための場として事務室を借上げるという条件があり、運営経費は家賃と事務局員の賃金となっている。事業経費は家庭教育学級、研修等の経費となっている。

委員 ほかの事業であると委託事業の場合は、決算や予算申請をして額の査定をすることになるが、委託であると何年かに一度見直しがあると思うが、決算や予算申請はしているのか。

副議長 毎年、決算、予算申請を行い、見直しを行っている。コロナで実際、活動が縮小している。

委員 補助金以外に運営費財源はどのようなものがあるか。

副議長 各PTAの会員から会費をいただき、その中でやりくりをしている。

本件について異議がなければ承認でよろしいか。

(異議なし)

(3) 令和4年度社会教育委員会議の審議テーマについて

遠藤主任から説明を行った。

副議長 ただいまの説明について、何か意見・質問等があるか。

委員 この目的は、文章の最後のほうに書いてある対面での会議とリモート会議、オンライン会議のメリットデメリットを洗い出すということが目的なのか。この会議自体をどういう形にするということが目的なのか。

遠藤主任 この会議自体の形ということではなく、生涯学習センターの例でいうと、講座などを行う形についての新しい形、リモートとオンラインのメリットデメリットを振り返りながら、どういうことができるか、こういったことだったら対面のほうがよい、この場合はリモート、この形だったら併用でもできるなどを探っていければと思っている。社会教育委員会議の形ではなく、社会教育の活動の形というところを考えている。

委員 その主体、会議の主催者は行政という考えか。一般的な会議だと誰が主催者かわからない。主催者は行政という考え方でよいか。

委員 このテーマを見ると、社会教育の新しい様式についてとあり、横須賀市の社会教育の在り方を今度どう考えていきますかというイメージで捉えたが、先ほど説明のあった市民講座の持ち方であるとか、博物館の事業の在り方であるとか、図書館の事業のもちかたであるとか、様々な諸々説明いただいた所管課が今後横須賀市の中で社会教育を展開するにあたって私たちはどういうことを求めてきますかというようなイメージでよいか。

委員 事務局が思っているのは社会教育で市民の学習をどういう風にしていこうか、市民の学習の方法としてこんな方法が考えられるのではないかというようなことを我々で検討してもらいたいということではないか。

遠藤主任 諮問ではなく、提案でこのようなテーマを扱うのはどうかというところである。

委員 ズームでオンライン会議とあるが、例えばバーチャルリアリティーでゴーグルをつけて、別のところに行ながら図書館に行けるとか、どこか、海堡などに行ける等の講座を考えるということか。

柿原課長 ここに限ってのアイデアをいただきたいということではない。コロナ禍を経験して、生活も変わった。社会教育などもユーチューブ等で大体のことは調べることができるが、よく

も悪くもそれを活用する場面や人が集うにはどうしたらよいかなどを今までの皆様の経験や知見の中からはいろいろなアイデアやお考えをいただければと思っている。

委員 問題提起として、老人クラブで事業に伴うリモートの限界、リアルの大切さに触れてみたいと思う。保健体育部事業のグランドゴルフ、ゲートボール、ボッチャ大会、普通のゴルフ大会、健康体操はリモートではほとんどできない。かろうじてできるのは健康体操くらいである。あとはリアルの世界でないと全く機能しない。次に文化教養事業の文化作品展もリアルでないとできない。研修会はリモートで可能である。リモートで可能なものと、リモートでできないもの、絶対できないものがある。経験した中で重要だと思ったのは福祉活動の中の利害活動で高齢者の健康の見守り、児童を含めた日ごろの安全対策、見守りということを含めて主体にしているが、ある意味、リアルの世界でしかできない。安否を確認するという意味でスマホやアイフォンの活用というのはどこまで可能かということについていろいろと考えを巡らす必要があると思う。リモートでできる部分にかなりの限界があり、先ほど話にでたバーチャルリアリティーがあったが、見てもちっとも面白くない、触らないと面白くない、人と話しながら見ないと面白くないという現実があると思う。その限界がわかりながらのアイフォンやスマホの良さを活用して、リアルの世界をどう保管するかということに着目して議論しないと意味がないのではないかと思う。

副議長 今回の審議テーマは事務局提案のテーマでよいか。

委員 加藤委員のリアルについての説明はわかりやすかった。5つ目くらいにあるとわかりやすいのではないか。

委員 社会教育をどうするか、どういう教育の方法があるか、様式を考えるや、やり方についてはいろいろあるので、社会教育は大きすぎる。絞ったほうがよい。

委員 社会教育という命題で考えると堅苦しい。社会教育も企業の事業も行政も、いろんな活動も何のためにあるのか、本来のそもそも論から考えれば、市民が幸せで安全に暮らせるためにある。なおかつそこに文化教養を身に着けて心身ともに健康に生きられるという目的であるから、教育ということだけに特化せず、それによって何ができるか、各課からのいろいろなご紹介があったが、それぞれ納得性があり面白かったが、ひとつだけ私の意見を言わせていただければ、横断的な事業の着眼がなかった。課を横串で通したような横断的な事業の発想の提案がなかったので、そういうことも踏まえて、社会教育という観点からリアルとリモートという観点を、どういう形で市民の幸せ、安全につなげていくかの観点も、もう一つの教育ではないかと思っている。

副議長 市民が幸せで安全に暮らせることがそもそもの目的ということで、どのような形ができるのかを審議するというような提案でよかったか。市P協でも家庭教育講演会を開催したが、今まで締め切りでお断りするような鉄板メニューでやってきた講座だが、コロナが明けてリアル開催で募集したが、8人しか来なかった。こういった内容を 유튜브 や ネット で見れてしまうということが、コロナ禍で染みついてしまっている。社会教育に関しても今までと違う切口、手法で横串でコンテンツや主本をそもそもから見直しを考えていったほうがよいと思っている。今までの各委員からの意見を踏まえて事務局で少し練り直し、整理をお願いしたい。

- 柿原課長 事務局で少し絞り、練り直す。
- 委 員 知識を吸収する、何かを学ぶということはリモートで問題ない。双方向的な話や参加型や、実際に物を触ってやることは絶対リモートではできない。そこはきちっと線を引かないといけない。何もかもがリモートでいけるということにはならない。
- 柿原課長 それぞれにいいところ、悪いところがある。オンラインが広まったことで、例えば今まで表に出られなかった方が市民大学講座など、リモートだったら、自分も聞ける。さらに双方向でやり取りができる仕組みをいければ、質問もできるなど新しい可能性もあるのかなと思う。いつでもだれでもどこでも学べるという社会の推進につながるようなところと、やっぱりリアルの大事さや特別感というのもすごく感じられてると思うので、少し絞って会議後、またご相談させていただければと思う。
- 委 員 この内容を律義にやるとすると、過去数年間の事例を検証すれば終わってしまう。新たな様式を提案というところにたどり着かない気がする。話を突き詰めていけば、ケースバイケースでそれぞれの人の生活や講座の在り方によって千差万別だから、それぞれに適した形でやるしかないということになってしまうと、新たな様式を提案するというところにはたどり着かない気がする。今までは対面だけでやっていたのがオンラインも出てきたけどそれってよかったのどうだったのって、メリットデメリットって書いてあるがそういうことを検証して終わってしまう気がする。評価して終わりではなく、もう少し相談して新たな様式や今までないようなものへの期待もあると思うが、今までやったものがよかったのか悪かったのか、これからも続けたほうがよいのかというようなニュアンスで捉えられてしまう気もするので、もう少し具体的に例えば市民大学講座の在り方など絞ったほうがよい。そういうものを与えられれば、具体的なアイデアが出てくると思う。あまりにもテーマが大きい。
- 委 員 広すぎてまとまらない。困っていることなどを率直に提案したほうがよい。
- 柿原課長 この案を考えたきっかけは市民大学講座である。皆様にもご相談させていただきながら、少し絞って、いただいた意見を具体的に反映できるようなテーマを考えていきたいと思っている。
- 副議長 事務局でテーマを絞り、改めて示していただくこととする。

(4) 令和4年度神奈川県社会教育委員連絡協議会理事選出について

遠藤主任から説明を行った。

- 遠藤主任 本来であれば、本日の会議で理事選出をしていただくが、神奈川県社会教育委員連絡協議会の総会が、本市の第1回社会教育委員会議よりも前の開催となり、本日の会議よりも先に理事選出をしなければならなくなったため、事務局から山岸委員に理事をお願いした。ご承認いただけるか。
- (異議なし)

9. その他連絡事項

遠藤主任から事務連絡を行った。

- 副議長 全体を通して何かご意見、ご質問はあるか。
- 委員 時々くれる社教情報だが、読んでみると、とても参考になる。次はいつもらえるのか。
- 遠藤主任 年に2回である。
- 委員 県の社協連で作ったハンドブックを配ったほうがよい。ある市町村ではこれを新しく社会教育主事になった人の教育資料として使っているという話もある。読んでもらうだけでも違うと思う。
- 遠藤主任 用意して送る。改定され、県のホームページにも掲載されていたと思うので、事務局で調べる。

最後に、副議長が閉会を宣言し、会議は終了した。

(閉会)

以上のとおり相違ありません。

議事録署名年月日 令和4年 月 日

議事録署名人